

# 認定看護師ニュースレター第62報

感染管理認定看護師の奥田聖子です。  
新型コロナウイルス感染症も第8波となりました。



その間、多くの施設でクラスターを体験し、急性期医療施設はどこもいっばいで、高齢者施設でも陽性者を見る必要性がでてきました。

そのため、感染対策向上加算Ⅰを取得している医療機関が協力して指導者となり、高齢者施設での実地研修が始まります。長崎県内で3000名の参加を目標に3年計画で開始されることになりました。

医療機関と高齢者施設を比べると、マンパワー不足や防護具などの物品や隔離するための部屋や陰圧にするための機材などの不足があるなか、可能な限り効果的に感染対策を実施できるよう、ともに考えていきたいと思えます。

今年は3年ぶりにインフルエンザの流行期（全国約5千カ所の定点医療機関から報告された最新の1週間（12月19～25日）の患者数が、1医療機関あたり「1・24人（速報値）」となり、流行開始の目安となる「1人」を超過）にも入りました。



できるだけ感染症の流行の波を小さく抑えられるよう、流行期にはユニバーサルマスクの実施や体調管理、室内の換気や手指衛生など行うとともに、年末年始の人の動くときには特に3密（密閉・密集・密接）に注意しリスクの高い行為（アルコールの入る会食やカラオケなど）には注意していきましょう。

また、万が一、インフルエンザやコロナウイルスに感染した場合に備えて経口補水液や解熱剤の準備、食料品の調達方法（一人暮らしの方はネットスーパーなども活用できると思います）など事前に調べておくと安心です。

佐世保市のホームページにある自宅療養される方へのパンフレットが参考になるのでご一読ください。

